

READ system と財団法人設立許可までの小史 — 設立者の活動記録 —

1989年4月21日

東北大学医学部附属病院(当時、現・東北大学病院)病理部で、院内を対象とした悪性リンパ腫症例の臨床・病理検討会を開始した(Lymphoma Conference:1996年11月の130回まで)。

11月1日

同病理部において、病理組織学は観察以外にフローサイトメリー・染色体分析・遺伝子解析の結果と総合して診断するシステム(READ system の原型)を開始した。

1994年1月4日

学外・県内基幹病院からの要請を受け、悪性リンパ腫疑い症例の検体を医学部の受託検査扱いとした。

1996年12月1日

全国規模の衛生検査所において、悪性リンパ腫の総合診断システムを単一項目として受託するようにした。

1997年12月1日

検討会を Lymphoma Conference TOHOKU と改称して県内の基幹病院に対象を拡大(2005年1月の150回まで)。

1999年9月24日

「READ system」の呼称を考案し、後日商標として登録。

2000年1月4日

国立がんセンター東病院からの受託開始。

2003年6月2日

順天堂医院(本院・静岡病院・練馬病院)からの受託開始。

2005年4月1日

READ system を新たな衛生検査所(2社)と開始し、かつ、Lymphoma Case Rounds と改名して東北・関東圏に対象を拡大にした症例検討会を開始(1~176回:2008年12月末現在)。

9月20日

秋田大学からの受託開始。

2007年6月26日

それまで抱えてきた悪性リンパ腫症例の県内完全登録や社会貢献学構想を具現化させるため、私財を投じて財団法人を設立する意志を固めた。その旨を赤石氏(高校同期卒)に相談する(6月30日)とともに石澤氏、安藤氏、小野氏(同)の協力を得ることになり(8月15日)、東北大学大学院医学系研究科血液・免疫病学の張替氏(9月10日)、同小児病態学の土屋氏(9月11日)からご協力の言葉をいただいた。

9月13日

県庁訪問を開始。

9月23日

「READ 血液アカデミー」の名称を考案。

10月4日

上記4名と決起集会開催(ここで友人らからの勧めによって「一迫記念」を冠することに)。

2008年4月12日

発起人会開催(ホテルメトロポリタン仙台)。

9月17日

主務官庁の宮城県に、それまでの1年間同庁から指導等を受けて作成した最終的な申請書類一式を提出。

10月1日

設立許可。